

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目

日本史

総括

難易度(昨年比)

難化

昨年並

易化

分量(昨年比)

増加

昨年並

減少

〈総論〉

大問4題のうち、3題が記述形式、1題が論述形式と、例年通りの出題形式である。全体としては教科書に準拠した問題がそろっている。大問1の史料問題、大問2の短文問題、大問3のテーマ史は、近年の傾向として難易度が下がっている。

〈特記事項・トピックス〉

- ・第1問の史料問題は読解を要する問題がなく、設問だけで解答が導けた。
- ・第3問では昨年度に続いて図版・表が出題されたが、今年度は読み取りが必要なかった。
- ・第1問の(17)について、治安警察法を解答として想定していると思われるが、宣言書が出された時期は治安警察法が改正された後であり、該当する解答はないと考えられる。

〈合格への学習対策〉

京大志望者には、私大タイプの記述問題への対策と、論述問題への対策の両方が必要とされる。しかし、特別な参考書などは必要なく、高校教科書を用いて地道な学習を積み重ねていくことが大切である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述	中世・近世・近代の史料	A 中世の史料(『大乘院寺社雑事記』) B 近世の史料「南鐐二朱銀通用二付触書」(『御触書天明集成』) C 近代の史料「婦人参政権獲得期成同盟会の宣言書」	標準
II	記述	原始～現代の雑題		標準
III	記述	近世・近現代のテーマ史	A 文治政治への転換と出版物の広がり B 明治時代の法令と帝国議会(図版) C 近現代の小作地率の変化と産業人口の変化(表)	標準
IV	論述	古代・中世の論述問題	(1) 摂関政治の特徴 (2) 鎌倉時代の流通をめぐる新しい動き	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。